

### 事業名 地域ふれあいのための納涼大会

#### 事業概要

- コロナ禍で中止していた「納涼大会」を4年ぶりに再開。子供が楽しめる多彩な催しを実施し、多くの親子連れが参加。3世帯の新規加入につながった。
- 初の取組として小・中学生に「模擬店」のお手伝いを募集。5名がかき氷作りなどを担当し、社会体験の場となった。

実施期間 令和5年6月3日～8月13日

参加人数 納涼大会 延べ約900名

事業総額 約28万1,400円

(地域の底力発展事業助成金 20万円)

#### 役割分担

《花飾り・納涼大会案内状配布チーム(約40名)》

町会20ブロックのブロック委員、有志で手分けをして花飾りと案内状を住民に配布

《会場設営・模擬店チーム(約60名)》

町会のスタッフが中心となり、櫓立てやテント張りなどの会場設営、模擬店の運営などを担当

#### 主な経費(助成対象)

● 謝礼金 囃子連への演奏御礼

● 物品購入費

花飾り用部材、町会名入りタオル、模擬店用食材、子供くじ、お楽しみ抽選会景品、チラシ用カラーコピー用紙、チラシ用インクカートリッジ

● 印刷経費

ポスター(A3カラーコピー)印刷費

● レンタル料

かき氷機レンタル料

#### 事業の開始から終了までの主な流れ

令和5年

6月3日 初回打合せ

6月10日 実行役員会、打合せ

6月18日 第1回実行委員会で事業内容を打合せ

7月1日 関係団体・関係者へ納涼大会案内状を送付(50通)

7月9日 第2回実行委員会で役割分担、進捗状況確認

7月15日 花飾り作り、16～18日に個別訪問により納涼大会案内状・花飾り配布

7月16日 ポスター掲示・チラシ回覧

7月22日 公園清掃・会場設営

7月23日・26日 鱒つかみ取り会場の小川清掃

7月29日・30日 夏祭り「納涼大会」開催

8月13日 反省会



25名が参加した花飾り作り。町会加入の各世帯に2本ずつ配布した

# 夏祭り 納涼大会

町会の会員、非会員を問わず地域の誰もが参加して楽しめる内容とし、子供みこしや子供鱒つかみ取り大会など、親子連れの参加で賑わった。お楽しみ抽選会でも子供向けの景品を充実させた。地域で世代間の交流が進み、連帯感が深まった。

## プログラム

### ● 7月29日（土）

- 11:00 会場開き・開会式  
模擬店の準備開始
- 13:00 子供みこし（25名、町内を回る）
- 14:00 子供鱒つかみ取り大会  
（子供35名、大人15名（見守り担当））
- 15:00～18:00 落書きキャンパス（子供催事）、  
模擬店（焼きそば、かき氷、ジュース）
- 18:00～20:00 太鼓演奏、花火大会



子供たちが自由に楽しんだ「落書きキャンパス」



町内を練り歩く子供みこし。子供たちの参加が祭りを盛り上げた

### ● 7月30日（日）

- 11:00 模擬店の準備開始
- 13:00 お楽しみ抽選会  
（多文化共生理解促進チラシを配布）
- 13:30～15:00 落書きキャンパス（子供催事）、  
模擬店（焼きそば、かき氷、ジュース）
- 15:00 町会長挨拶・終了



鱒のつかみ取りは、その場で塩焼きにして食育の場にもなっている(上)。左は賑わう富士見公園の納涼大会会場

## 事業による 成果・効果

### 子供たちが参加、社会体験や食育にもつながる催しに

子供たちが楽しく参加できる催しに力を入れ、子育て世帯が親子で多数来場した。

今回、初の取組として、小学校5、6年生、中学生を対象に「模擬店のお手伝い」を募集。子供向けチラシを作成して回覧した結果、5人が応募。かき氷作りや、飲み物のお客さんへの手渡しなどを担当し、「いらっしゃいませ」と元気な声で地域の人たちを迎えて祭りを盛り上げた。会長の撰梅さんは、「昔の子は近所へのお使いなど、よくお手伝いをしましたが、最近はそうした機会が減っています」と説明。世代間交流はもちろん、子供たちの社会体験の場にもなった。鱒のつかみ取りも、子供たちが手にした生きた魚を、係の人がその場で捌いて塩焼きに調理することで、食育にもつながっている。

また、事業終了後、40代の子育て世帯も含めて3世帯が町会に加入。「以前から子育て世帯のつながりを通して加入を呼びかけていた人がいました。今回、夏祭りを楽しんでもらい、町会の役割を理解の上、加入していただけたのだと思います。今後も、子どもを通して加入につなげたいため、小学校との連携に力を入れていきたいです」と撰梅さんは説明する。

## 事業を振り返って

### 楽しんでもらう側から楽しませる側へ

記録的な猛暑となった今年の夏。2日目は予定を早め、午後3時に終了するなど変更もあったが、「4年ぶりに納涼大会を開催でき、コロナ禍の閉じこもりで薄れていた住民のつながりを取り戻すことができました」と撰梅会長は語る。「祭りをまず楽しんでもらい、楽しませる側に回って欲しい。そして、自分たちが楽しむことも大切です。子供たちには祭りに参加したことでふるさとの思い出を作ってあげたい。これからも町会活動への共感度を高めていきたい」と目を輝かせる。



「町会の役割を地域の皆さんに知って欲しい」と会長の撰梅さん